

新春労使懇談会を開催

埼玉県生産性本部

埼玉県生産性本部（会長＝山田吉隆・川口化学工業代表取締役社長）は1月23日、さいたま市内で「平成30年新春労使懇談会」を開催した（＝写真）。

冒頭、山田会長がいささし、「生産性運動は、労使、学識者が相互に共通認識のもとで、様々な課題の解決を図っていくことが大切である。世の中はどんどん変化しており、古い時代の基準をもっ

て課題解決を図るのではなく、常に新しい考え方のもとで、課題に向き合うことが重要になる。記念講演は、第4次産業革命がテーマとなるが、それが何を意味するのか、行先はどうなるのかなど、新たな考え方につなぐべし」と述べた。

山野隆子・埼玉県産業労働部勤労者福祉課長は来賓あいさつで、「埼玉県生産性本部は県経済の発展と県民福

祉の向上への活動を展開しているが、『働き方改革フォーラム』や『女性活躍推進フォーラム』などは県の施策ともマッチするもので



あり、敬意を表したい。県では、生産年齢人口が急激に減少し、また、人手不足が深刻化する中で、『埼玉版ウーマノミクス』などの社会の活力を維持する取り組みを進めているが、今後、急速に普及することが見込まれるAIなどにどのように向き

合っていくかが課題となっている」と語った。

尾木氏は現在、ドイツ連邦共和国ザクセン州経済振興公社日本代表部代表も務めており、ドイツ発の国家プロジェクトとして進められている第4次産業革命「インダストリー4・0」について、その概要や本質、直面する課題などについて、具体的な事例を盛り込みながら解説した。

記念講演では、尾木蔵人・三菱UFJリサーチ&コンサルティング国際アドバザリー事業部副部長が「インダストリー4・0」第4次産業

（AI・データ活用モデル）にシフトしていくが、その前提として、コンピューターの情報処理能力の劇的な進化や「クラウドコンピューティング」の普及、様々な情報を感知、収集するセンサーの低価格化・小型化があることを指摘した。

インダストリー4・0においては、すべての産業がCPS（サイバー・フィジカル・システム）とデバイスや機械を連携したシステムを軸として、AIについて、ビッグデータがあって初めて付加価値を生むことを解説。AIをエンジンに例えれば、燃料ガンリンに相当するビッグデータがあって初めてAIを活用できると語った。